

## 学びは止まらない

学校長 辻 太一郎

秋は虫の音

うっそうと茂る草の中から 違う虫がそれぞれの声で鳴き 音が混ざっているのがいい  
声が途切れながら 様々な音が混ざっているのも 自然のはかなさが伝わってくるようで  
とても美しい

日がしずんでしまった後の月も 黒い空を明るく照らしているのがとてもきれいだ

6年生の国語の時間、「私の枕草子」というテーマで書き上げた、ある児童の作品です。この児童の優れた着眼点、表現力、感性が凝縮しています。読む者に、共感や安らぎを与えるすばらしい作品です。このような逸品が生み出されていた同じ時間、1年生は、漢字の書き方の練習をしていました。担任と一緒に空中で大きく書き順を練習したり、練習帳に何度も書き込んだりしていました。そんなこの子たちも、5年後には、あのような文章を書けるまでになるのだと思うと、感動さえ覚えます。

4月末、6年生を中心とした企画運営で「1年生を迎える会」が実施されました。綿密な準備と使命感あふれるてきぱきとした動きですばらしい会を作り上げました。6年生が名実ともに志津小のリーダーとなったことを確信しました。こうして6年生に手取り足取りもてなされている1年生も、5年後にはもてなす側として、リーダーシップを発揮するのだと思うと、これもまた感動的でした。

ところで、会の中では三択クイズが出されました。「志津小の校長先生の名前は？①御厨先生、②木村先生、③辻先生」。私はその場に居合わせたので、自分で「辻です」と正解を発表しました。後になって、6年生のある男の子が私にささやきました。「校長先生、やはりあそこは『辻です』ではなく、ボケるべきだったのではないのでしょうか」。6年生ともなると、こういう楽しい大人の会話ができることにも感動しました。

小学校は1年生から6年生と幅広い年齢層の子どもたちが同じ学び舎で過ごしています。ですから、その劇的で感動的な成長の過程がよくわかります。教育は連続と積み重ねだということを実感します。今、国は、コロナ禍においても「学びを止めない」ことを基本方針としています。本校には、それを具現化する責任がありますし、それに全力を尽くします。一方、コロナウイルス変異株の感染拡大が懸念されています。時には、子どもたちの安全と学びを天秤にかけた究極の選択を迫られる場合もあり得ます。それでも学びを止めないためには、工夫や新しい発想、そして保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力が必要となります。学校・家庭・地域の連携がより必要とされる局面にあるのかもしれない。

さて今回は、1年生と6年生を比較して、6年生の成長ぶりをお伝えしましたが、1年生も決して負けてはいません。約1か月前、1年生の給食の様子をのぞいてみると、ある

女の子がひじきのマリネを恐る恐るスプーンで突っついたり、匂いを嗅いでみたりと、なかなか食べようとしませんでした。おそらくその子はひじきのマリネが苦手なのか、あるいは食べたことも見たこともなかったのかもしれません。そして先日、再びひじきのマリネが出されました。今回その子はぺろりと完食しました。できなかったことができるようになる、これはすごいことです。1年生の成長の幅の大きさに感動しました。

また別の日、授業の一環で、1年生が校長室見学に来ました。見学を終えた子どもたちに私が「楽しかったですか？」と聞くと、何人もの子どもたちが答えました。「はい、遊園地の百倍楽しかったです！」本校の校長室は、決して夢のワンダーランドではありませんし、〇〇マウスもない殺風景な空間です。それでも、大人をがっかりさせない対応ができる1年生に感動しました。